

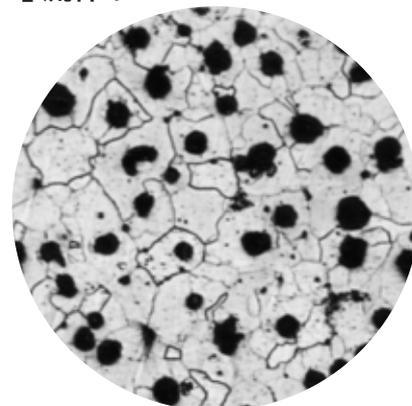
柔軟で高強度なダクティル鑄鉄製 強靱バルブ

蒸気、高温水、油、ガスなど水や空気などの流体に比べて「危険性の高い」流体や「高温・高圧」流体には、ダクティル鑄鉄製バルブをお奨めします。

東洋 ダクティルバルブの材料は、「球状黒鉛鑄鉄品」(JIS G5502)及び「ダクティル鉄鑄造品」(JIS B8270⁻¹⁹⁹³)として、特に靱性を改善した鑄鉄材料です。

一般的に、蒸気、高温水、油、ガスなど水や空気などの流体に比べて「危険性の高い」流体や「高温」流体には、鑄鋼やステンレス鋼などの鋼材(ハガネ)製バルブを利用しますが、これらの鋼材は、価格が高いことが難点です。

ダクティル鑄鉄は、「鋼」の持つ強靱さと「鑄鉄」の持つ経済性とを併せ持った優れたバルブ材料です。当社のダクティルは、「压力容器の構造」JIS B8270⁻¹⁹⁹³「压力容器の構造」で一定以上の球状化率が規定される「FCD-S」を採用しています。



ダクティル鑄鉄の金属組織

ダクティルバルブは、消防法に規定される「危険物貯蔵タンク元弁」として使用できます。

消防法に規定される「危険物の規制に関する政令」では、屋内外の危険物貯蔵タンクの元弁として使用するバルブは、鑄鋼製と定めていますが、昭和42年5月20日自消内予発第32号通達により、ダクティル鑄鉄製バルブも鑄鋼製と同等以上の性能があるものと認められており、この設備の元弁として法規上利用することができます。

関連規格

ダクティルバルブは、JIS規格が整備されていないため、JV(社団法人 日本バルブ工業会)が規格を整備しています。この規格は、1991年3月に制定されました。

このJV規格には、「ダクティル鉄」の他に「可鍛鑄鉄」、「球状黒鉛鑄鉄」、「マレアブル鉄」など、ダクティルと同種の強靱鑄鉄材料も同時に規格に採用されました。

建築設備におけるデファクトスタンダード(業界標準)と位置付けられる「国土交通省 公共建築工事標準仕様書 機械工事編」にも、このJV規格がほとんど採用になっていますので、ダクティルバルブは、各種設備用バルブとして安心してご利用いただけます。

東洋ダクティルバルブは、特に、「高層ビル」など10Kを超える圧力レイティング(16K、20K)のバルブ・ストレーナを幅広く品揃えしていますので、多くのビル設備で豊富な実績を有しています。

JV(社団法人 日本バルブ工業会)規格 ★規格番号および規格の名称()内は略称

- JV4-2 鑄鉄弁一可鍛鑄鉄および球状黒鉛鑄鉄小形弁(MD小形弁)
- JV4-3 鑄鉄弁一可鍛鑄鉄および球状黒鉛鑄鉄弁(MD弁)
- JV4-4 鑄鉄弁一マレアブル鉄およびダクティル鉄小形弁(MDS小形弁)
- JV4-5 鑄鉄弁一マレアブル鉄およびダクティル鉄弁(MDS弁)

当社製品の多くは上記規格に適合もしくは準拠しています。

活躍するダクティルバルブ

豊洲三丁目エネルギー供給施設

